

# 静岡県教育委員会

## 議事録

令和7年度 第2回定例  
4月16日（水）

静岡県教育委員会教育長 池上重弘は、

令和7年4月16日に教育委員会第1回定例会を招集した。

- |   |      |              |         |        |
|---|------|--------------|---------|--------|
| 1 | 開催日時 | 令和7年4月16日(水) | 開会      | 13時30分 |
|   |      |              | 閉会      | 13時40分 |
| 2 | 会場   | 教育委員会議室      |         |        |
| 3 | 出席者  | 教 育 長        | 池 上 重 弘 |        |
|   |      | 委 員          | 伊 東 幸 宏 |        |
|   |      | 委 員          | 小野澤 宏 時 |        |
|   |      | 委 員          | 天 城 真 美 |        |
|   |      | 委 員          | 飯 村 幸 生 |        |
|   |      | 委 員          | 渡 村 マ イ |        |

- |          |         |               |
|----------|---------|---------------|
| 事務局(説明員) | 前 澤 綾 子 | 教育部長          |
|          | 小野田 秀 生 | 教育監           |
|          | 山下 英 作  | 理事(統括・新図書館担当) |
|          | 中山 雄 二  | 参事(学校教育担当)    |
|          | 金嶋 克 年  | 参事兼新図書館整備課長   |
|          | 高林 伸 成  | 教育総務課長        |
|          | 白土 達 夫  | 教育政策課長        |
|          | 櫻井 澄 人  | 教育DX推進課長      |
|          | 上原 啓 克  | 財務課長          |
|          | 鈴木 憲 昭  | 教育厚生課長        |
|          | 横田 恭 子  | 教育施設課長        |
|          | 秋野 薫    | 義務教育課長        |
|          | 中村 大 輔  | 高校教育課長        |
|          | 山村 仁    | 特別支援教育課長      |
|          | 夏目 伸 二  | 健康体育課長        |
|          | 小竹 啓 功  | 社会教育課長        |
|          | 植松 博    | 静岡教育事務所長      |
|          | 菅沼 晃    | 静岡西教育事務所長     |
|          | 持山 育 央  | 総合教育センター所長    |
|          | 高橋 健 二  | 中央図書館長        |

#### 4 その他

(1) 報告事項は了承された。

##### 【開 会】

- 教 育 長： ただ今より、教育委員会定例会を開催する。  
今回の議事録の署名は、私のほか、飯村委員にお願いする。
- 教 育 長： それでは審議を始める。

## 報告事項 1 静岡県立ふじのくに中学校 令和7年度入学者数報告

教 育 長： 報告事項1「静岡県立ふじのくに中学校 令和7年度入学者数報告」について秋野義務教育課長より説明願う。

義務教育課長： <報告事項について説明>

教 育 長： 本件の編入学について補足説明する。夜間中学校を開設するにあたり、3年次や2年次から入れないかという声が開校前からあった。もう少し具体例を挙げると、中学3年生で不登校になり、3年次だけ夜間中学校で学び直したいというようなニーズである。

ところが、本県の夜間中学校は、それに対応することができないままであった。それは1学年から始まるので、3年次の生徒が初年度に入学しても、3年次を教えるための人員体制が整っていないという理由である。今回完成年度となり、3年次までの人員体制が整ったため、編入学の門戸を開いた。その結果、先程の表にもあるように、磐田本校で10人入学のうち8人、三島教室では12人入学のうち8人が編入学であり、編入学にかなりのニーズがあることが明らかになった。これはこれまでの年度に無い一つの大きな特徴である。

また、追加募集で一次募集をはるかに上回る人数が集まった背景について説明願う。

義務教育課指導班長： 一次募集の期間が短く、その後二次募集で随時受け入れたことで人数が上回ったと考えている。

教 育 長： 想定される主なターゲットに説明に行ったのではなく、最初の段階の募集期間が比較的短く、その後の募集は随時募集しているので、結果的に追加募集の人数が増えたということか。

義務教育課指導班長： そうである。

教 育 長： 補足の情報を共有した。質疑等はあるか。

天 城 委 員： 学級編成は、しずおか式35人学級編成によるとあるが、最大で1学年35人まで受け入れる体制で今後進めていくということか。

義務教育課長： 定員は設けていない。

教 育 長： 定員という考え方ではなく、希望者がいれば受け入れていく。35人の学級編成という物理的な基準を設けるが、35人しか受け入れないということではない。

天 城 委 員： 2クラスになることも今後考えられるということか。

義務教育課長： 施設の状況等を考慮しながら検討していく。

教 育 長： 全国でも夜間中学に外国にルーツを持つ方が一定数いるということは広く知られている。静岡県においても当初から7、8割は外国ルーツの方がいると想定しており、国籍は日本であるが、親御さんの一方が外国籍という方も中にはいる。実質的に外国にルーツを持っており、日本語の壁のために義務教育段階で躓いて学校から足が遠のいたが、また学び直したいという方もいることは、これまで学校を視察した中で感じたことである。他に質疑等はあるか。

全 委 員：（特になし）  
教 育 長： 報告事項 1 を了承する。

教 育 長： 以上で、本定例会の議事は全て終了した。

これをもって、令和 7 年度第 2 回教育委員会定例会を閉会とする。